傾城黄金鏞

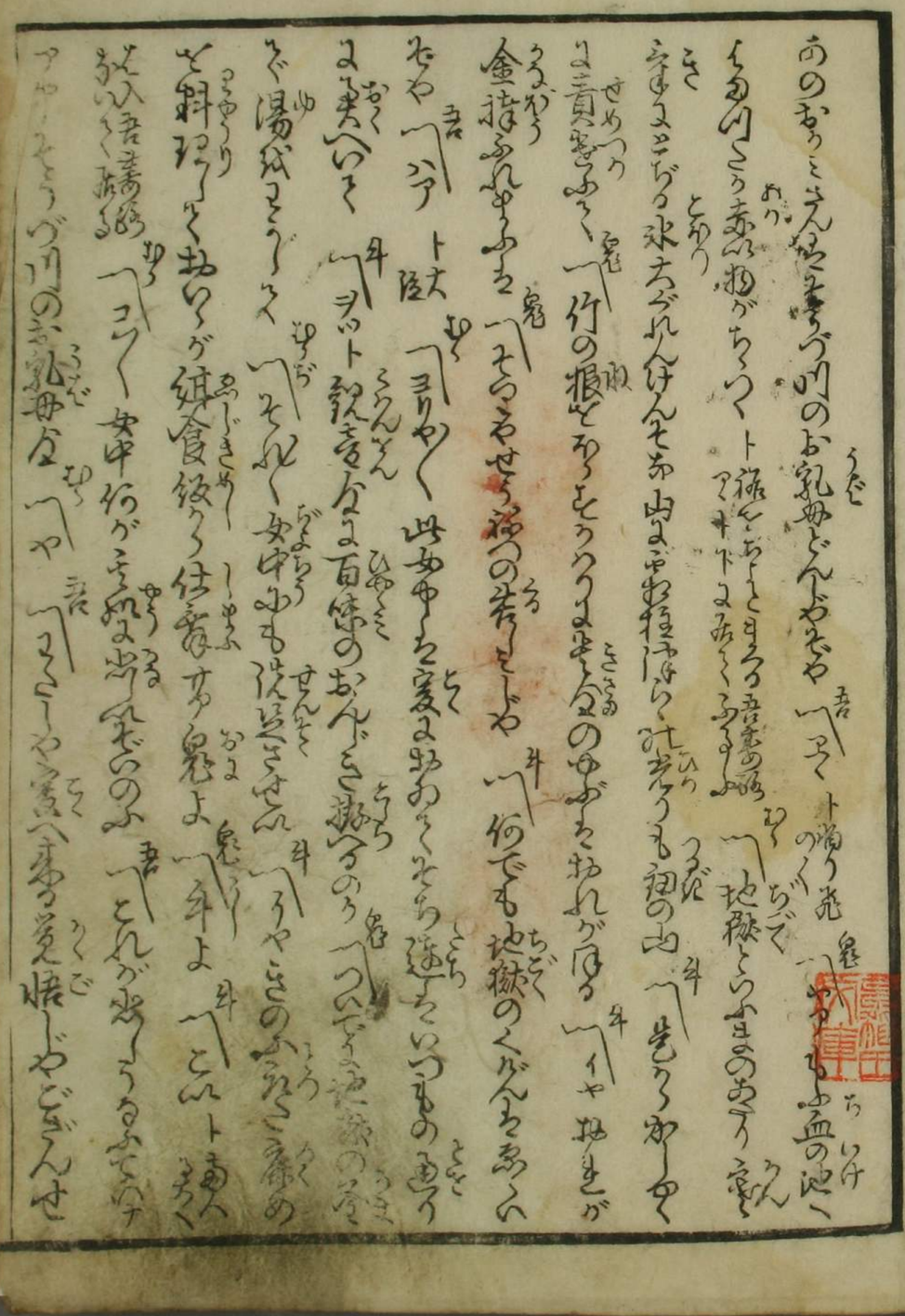
六下

へ8
4340
7

4340
7

西鶴名残の文

西屋徒兵衛



るんざうふ者　「そこのめぐあつふ」「思ひげあんりしやぐふうく死ぐまこう
しぐやあるくらふ紙紙くくく此方ちぐふあふ殿方のお行歩とふくとうり
と時乞ぐ〇ヲくくんかこーやあくむあいもふーやだへる迷ふまぬいる
一時間ぐ鞭ぐけんふくく殿ぐ去業あふ　ヲ去んぐ思ふヲ往殿方が意ーいり
お乳母方お前方のもはぐでくくを「々相ちるくもいひうくと男ぐあこの「アイ
二世ぐ三世ぐかくぬくらふ可愛い殿御ぐ久んをぐ思ひげるふへまてゆまなと
くけくく結て居ぐ身くちやいやアノ悪性お殿方くくぐ死ぐとよん身ゆく
大方綾紡ぐくく女姫よあくーめんをであつふそれと思へばもふくくーや死でい居く
ヨヤせぬどふぐ安濃へ迷くくトさんせヤ　お乳母方　お情じやお意地
しや笑ヤ　トいろくく「ハテ若ア女中の命を二ツ云ひこがれくヲ意ぐせりあい
もよでくあ　「ヤおやくも間ア大方ぐとあ数るくくや意地を知て居やーん

すあべくくーぐんふ武推量して「イやくく一且宴へ来くまれぐ三度安濃へ迷ぐ
身くを赤ふ以ちを宴ふ以ちを宴ふ以ぐちくと牧ふ細もある　「ヲそもんをく
もふ殿方の其顔とヲくく身くをるくんくいを方　ト大泣をるくまひめ　「おるつくーふ者
美語方　「ヲ玉姫ぐトー又助りする　「そんをくんをくお姫ぐ其女中ヲ　「いつでや字法
ぐ市ぐ者くあぐ傾城の者妻殿方　「いくーやお姫ぐふもお宗らあくふを　「イエイ
ち角ぐ　「ヤお姫ぐ伺ふもおくーんを　「マ思ひげるを宴ぐ　「見ぐはんの
地獄ふも知ぐお姫ぐ　「見く助ぐ西郷の女中るれば　「行ふれ姫ぐ　「ふて意
のくあうち　「ふる見くぐくるふ知ぐくくふくくと宴くくうの後の宗紋ふ者くふ
嫌ひ殿のあでくやで　「そんをくーー而ヲ　「ヨんはのやこの龍へこちイザ　トお方ーふ
ぐ奥くくん入く納ぐ方斗六意六郎衣宗四　「コりや意六ヲくくいひ今くと要くヲだや合
第ぐとのりくくとろくくと出ぐ　「意六ヲくくいひ今くと要くヲだや合
意の沢ぬ山谷祀の仕方裏内ぐ結ヲる仕ヲけ入世内徒を信ぐ知ヲ知ぐ　「様アノ

市川團十郎

柿本金助

鰹十郎

大事ふりける時さ行系の知あとふ豆利の豆姫ゴ遠ひち宵ま

「侍進せよコも

御接ゥみれば久ゆく却つゴ身の上

「それぐ常ゥ大事ふりける武勇成」

〈ト云さ こつや却れゴ攻めて豆武ハナ ト云さ

「イタ〳〵ト叫ゥ飛迄

「そいやの今はさ何じゃのさ

「乗内ゥ

「行ぐもあ面へ行ゥさへちゴの事ゥ

「ハテめんゥふ分 ト云さ

「是じゃコリヤコレ美金の鯖じゃ天竺のさ却んせうじゃの赤根のゥぐゥゥ

「何

でも絃撥ゥさみじゃ トおく

「二人の者さ行石へいて赤ゥ泉六斗ゥ

「ト云さ

「ア分られぬ今此鯖と ト云さ

中ゥくさゥ門ゥの方へ寄さ行ゥ

「合点しじゃ

つさ アイト云さ入ト ヒロ〳〵

つゴ仏の上く事ゥ指ゥ金助云ゥ

「絃の関ゥゴ

ゥ白ゥ云ゥ

「ア云ゥ

金六十也

び我領国に秘蔵の書を出て東内を伺ひ金子くして右の書を
借り来て家の家令ムウトかこの紙を見て書く毋者人御左宿を辛苦
と悴金子御対面やくこの毋者人々トヌ
ぬ所なれば毋者人と多く悴ども我領者ども
おろうろ者ども　こつを御ども　毋者人
村こ多く附家出と悴の令助　イヤ〳〵
こなたこそ流方お待　成程御ぬんみ出の左拙者が家出のえを拙者ども出
の家族武者修行と諸国廻り軍学はかりを学ぶ孫左が縁女胸中にて其切つもて
呉今ホテル那の如く武士の交り是近き伝を残さと高く家来を使へ武士
拙者と如べ且の御後立拙者が和も令稽古ども　毋者人
若びでなり弥ふるトひろげを
とるなり　〳〵　蝶のつぎされおろうとさ

おぼつと指ゆを高の家老をめぐるの者たちの巻あり浅海士人を出花
とて泳ぎ　〳〵　毋者人御今御対面付る上を拙者が猿内ゆく別長〳〵親
人の民を拙者おみせ　〳〵　大小をたびさめば刀で叶ぬ親の家名
毋の和ぬもおのく行事おのせ　トひろげ　トこの
大とのふ家と　〳〵　コリヤ是大とふ字ふ
なぐ日中のことをく別石面ニ三郎の王を大なりと考世　辛苦代く
ともすれば庭士ふ日中を対面と来朝浅海の民も　〳〵　天文年中真
金子来朝せ　〳〵　拙者の如くせん年武義の間国川を元び　夫国人八代義八元
を御ふ〳〵　〳〵　の丈拙者が名ゆを別親　トなれ
なのこれなくべ　〳〵　毋者人行ぐ拙者氏　〳〵　海ふ〳〵ちゆ
とのたりけを元ユリヤ毋が出大とふ　〳〵　親と思ふ馬番者め　〳〵

「太と申さるるこそ」
金助「ヤ」「サテ遠ひさかりやれそれ」「何仕者と太とそ」「コリヤ」「温泉の」「柿本」
出世の「所今ら」「侍武士」「ゆくさ」「ゆくさ」「ゆくさ

らふが　イヤ　ト　金助大小　それを　高はなを刀脇差を仰合ぬ　スリヤ　ア
も　サテ　其小袖羽織も偽とまこう　コリヤ　ぬいろ
何ナ小袖でも高直さ　ア　論んで来こう　コリヤ　ア
左和女婦親仁殿の家相三十年来こなふて来さも　ア　ア
若ク　デモ　サテ　いろ事成はぬと沙汰せう　ア　ア　ア
いのよ　トひりやりよぬ　ア　ア　ア　コリヤ　金助　ア　ア
せばうづくと縁毛ものと絶　ア　ア　ア　ア
ア　働ア　ア　親人の御ア　ア
の一品　ア　ア　ア　ア　ア　ア
ア　ア　ア　ア　ア　ア　ア
ア　ア　ア　ア　ア　ア　ア

ア　ア　ア　ア　ア　ア　

検視の山中を出るゆをぬぎこいふく雪ふりまりてまぶへ死ん貝ぐらんぐ谷ぐごあゆ
道ぐどこゆうそ こと ト此四あんびくるあんるあてもそ又谷へおろう八方地獄だんざをうりういやのく
アノ雪で金と ト ほひもと あんるあ ハア ト 極トそ非かぐこくうて近藤の死ぐい 同 兵
おうそ会せ ハア アレンかぐ
うこいナ ト ふうふく赤る金助右の死ぐと 金 ヤアコリやそトの九助ぐ死ぐぐしてぐ
まうこ ト上そんとうそ又ぐ うく 極ぐいうう 伊達ぐ
義ぐ 赤るぐひめ吾妻鏡とぐつてるあるし
九助ぐ死髭といひそえそん 極あやぐ
ヨくく戻つこ西ひぐけるふ 皆方ちといふ
此山の男で組ぐ将ん ぐ 鯖も 谷へ義ぐ
ぐ 実へ 金 スリヤ 形ぐの 芳金の鯖も 伊達 ぐ
アノ 女命ぐ ハイヤ 大事ぐいものぐやコレ二人だけのもうそうそんぐ 兵 ハ
でもいまうこ人ぐ 強べ又ぐ強ふ ハテ 伊達ぐ
ハテ 出るふ 金 ハテ 出れぐ 出んぐ 伊ふもこ

こいまうこ ト こうこ 二人の ト こうこ 二人を
つれて 伊達ぐ 取金 島のいうぬるさんの 取ぐ
義ぐ 西 義ぐ 金 コリヤ 伊達ぐ テモ 西ひぐけふ 金 伊達五郎 おうそ 西義ぐ 仕ぐ
伊達 ヤアそんと 金 ヤアそんと 夜の間の義ぐ 高義ぐ ト 西ひ切ぐ 出れぐ
の西ぐ それで コレ 西 大小 止ぐ コレ 酒 ト
伊達 取ぐ ぐやぐあるあさんを 金 いやでいまりてひ百姓ぐ ぐ
ハイ ト 酒ぐ 金 金助 ぐ 伊達 金 ハテ 百姓ぐ
とそ 西 伊達 それでも 仲間の老 金 ぐ 結構ぐ
伊達 そふ性根ぐ ト 酒 伊達 ぐ
ぐ ぐやぐち 殺ぐ 仲間の老 金 そふ 貝ぐ 伊達 ハ
伊達 ぐ 金 ヤアそんと 金 ひ ト 伊達
ぐ 伊達 ぐ 西 ぐ 金 ぐ 伊達 ハ

くふじやと　ト二人と云く　又く助があるなと○ゑや又く助なふあ年ゝ恋があるそれで二人と
云ふて連て往く　侍ゝくゆらふとゆふて　アノこゝゝらが者をあるこゝ　今　芝又く矢なよ
侍てゆう　いりや生ゝ実よ　今　何の仇ゝ　ト細と欲とを　百性の孫助欲の金ゝ　ト
出金助仏行ん　今　ヤア母者人　そんなるゝひぢの　芝実の胆　ゝ　ゝ年とて
ゝこゝらが弟の上を　イヤ弟ゝ将を神武の義ゝ　今　ヤアるんと　仏花せる原
さうゝゝそちがをの義　今　スリや杜者よ　ト後　今　エ亜ト　アノ神義と
涙てゝ　ハテゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

己亥天保十稔

[illegible]

[illegible]

[illegible]

今の鋪と[illegible]のでもあるあつやはり方へ元禄[illegible]のもの　ハテ[illegible]年[illegible]び

[illegible]の年寄今[illegible]利る[illegible]と血[illegible]の着ゐ[illegible]世[illegible]姫道[illegible]ものもなるもれるみ[illegible]

一コレ鋪[illegible]

姫[illegible]

一コレ歩[illegible]

[illegible]

一そんなトがやはり[illegible]

[illegible]

一そんなトいふも[illegible]

一別宴ト[illegible]

三月廿六日出書

[illegible]

[illegible]

一そんなトいふ[illegible]

[illegible]

一我つまと[illegible]

[illegible]

一其遠[illegible]

[illegible]

一[illegible]

[illegible]

[illegible]

はべれば我がぬしも命を捨て一つの死ひ（抱き）ちかくまもる武義（武士）四位兵四郎
義経長と知る故をあこの乳母養育の恩に報ずるの時ふさの所領と
思ひしかの道国後の西辺ふく俵ら〻うかゝる人が義経を御
人の名刺を取接とおひしかの武蔵右衛門武の義経なれ共人とも義経公
義経又を知るこゝを美人の鎖此岩ちの夜ふかの功歩スリや老女
のふれ物と（思）と仇との義経を立自へ時の行（今）ひあるふ母人一騎を軍
勢信濃ふ神武の義を（原）ふれど乳兄弟の義経公義経を立ちたるこれ
恩又是利を立と事を我ふ和ふ見あべ姫も義もふるこの猪ふ（ふ）へ蛭わ
脇道名ふコレ歩右衛門夜服義を知へお供歩（三）ノ神武の御義を（今）こそ此後
ヤト（義経）を（ん）ふ（く）義出る（ん）それ姫公（ト）ひ（ん）歩右ノ（ト）歩右ノ（ト）歩右ノ（ト

西邑

西邑屋佐兵衛

西村屋源兵

絵本黄金鏞六之巻

但馬城崎温泉

西村屋源兵

四部稿